



## 看護学部10年間のあゆみと将来展望

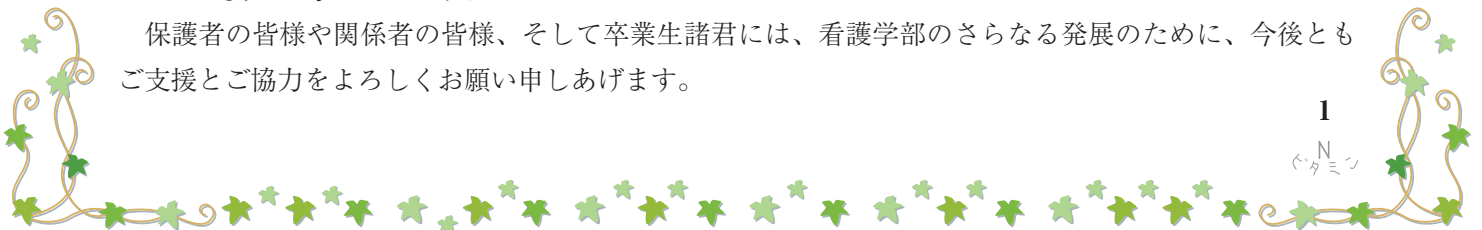
学部長・教授 春山早苗

医療に恵まれないへき地等における医療の確保及び向上と地域住民の福祉の増進を図るという自治医科大学建学の理念を看護の立場から実現するために、平成14（2002）年に開設された看護学部は、平成23（2011）年に10年目を迎えました。高度な医療ならびに地域の看護に従事できる総合的な看護職の育成を目的とする本学部は、平成25（2013）年3月までに838名の卒業生を送り出し、その多くが病院を始めとした保健医療福祉機関の第一線で活躍し、就職先からも高い評価を受けています。地域医療を守り、国民に良質な医療を提供していくために、看護職の資質及び能力の一層の向上が求められていますが、都会にあっても医療難民があり、また自然災害や感染症等の健康危機が多発するわが国の現況において、本学部への期待もますます、高まっていると言えるでしょう。この期待に応えていくために、全ての学生が看護師と保健師の、併せて選択した学生は助産師の資格取得を目指すことができる統合カリキュラムを本学部が継続していくことはとても重要であると考えています。平成22（2010）年に本学附属病院に看護職キャリア支援センターが設置され、教員もそのメンバーを務めていますが、在学生・卒業生のキャリア支援を強化し、どの職種やどの場で働いていても、より良い看護を追求できる人材、また、複数の資格取得を活かし、様々な働き方を選択しながら、看護職の不足している地域や機関等に貢献できる人材の育成を今後も目指していきたいと思えます。

また、平成18（2006）年には大学院看護学研究科博士前期課程が、平成24（2012）年には同博士後期課程が開設され、専門看護師や認定看護管理者等の高度実践看護職ならびに看護の教育研究者を育成していく体制も、この10年間で整いました。大学院へ進学する者や大学教員になる卒業生も出てきていますが、チーム医療の中で看護職としての役割を拡大させ、高度な医療と地域の医療をつなぎ、保健医療福祉を包括した地域ケアのリーダーとなり得る人材を育成できるような教育を推進していきたいと思えます。

さらに、卒業生の中には、青年海外協力隊等として国際保健・国際看護の分野で活躍している者もいます。今年度は本学部の学生がブータン王国を訪れ、現地の看護学生と交流する計画がありますが、今後は、国内のみならず、アジア地域を中心とする諸外国にも目を向けて、異文化を理解し、国際的な視野を身に付けた看護職を育成していくために、看護学生の国際交流活動をより一層、サポートしていくことも必要だと考えています。

保護者の皆様や関係者の皆様、そして卒業生諸君には、看護学部のさらなる発展のために、今後ともご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。





## 自治医科大学看護学部における看護教育の現状と展望

教務委員長 成田 伸

平成23年度まではすべての看護系大学では、看護師および保健師国家試験受験資格を必修で取得しなければ卒業できませんでしたが、平成23年に保健師助産師看護師学校養成所指定規則が改正され、保健師国家試験受験資格の取得は選択制になりました。本看護学部では、この指定規則の改正にともない、平成24年度にカリキュラムを刷新しましたが、保健師教育は必修として継続することにしました。現在、保健師教育を必修とする看護系大学は約6校に1校、私立看護系大学ではさらに少なく、8校に1校と少数派となりました。また、引き続き、10名程度の学生は、助産師の国家試験受験資格を取得することもできます。保健師、助産師、看護師すべての国家試験受験資格を取得できる看護系大学は、全体の3分の1となっています。

自治医科大学看護学部がこのような決定したのは、高度な医療や地域住民の保健医療福祉に貢献できる総合的な看護職を養成するという目的を追求していくために不可欠であると考えたためです。本学部の人材育成を目的とした教育には二つの特色があると考えています。ひとつは、どの職種や職場で働いても、常に人々の地域社会の生活を考慮して、より良い看護実践を追究できる人材を育成することです。もう一つは、複数の看護職の資格を活かして、多様なキャリアパスを選択し、看護職が不足している地域や保健医療福祉の機関においてさまざまな形で貢献できる人材を育成することです。

本学部のカリキュラムは、基礎科学分野、看護学分野、総合分野の3分野で構成されています。

総合分野では、基礎科学分野と看護学分野で学んだ知識と技術を総合し、看護実践を創造的に追究していくための基礎能力を身につけることを目指しています。セミナー科目として、1年次に『看護基礎セミナー』、2年次に『文献講読セミナー』、3年次に『研究セミナー』を配置しています。セミナー科目では、1～2名の教員が少人数の学生を担当して、必要時に個別指導を行うことで、学生一人ひとりが本学部が目指す基礎能力を確実に身につけることができるように指導しています。4年次の『総合実習』も総合分野の科目で、学生自身の将来展望も踏まえて、関心のある看護の専門領域を選択し、高度医療やへき地を含む地域等のさまざまなフィールドで、それまでに学習した知識・技術の統合を目指します。さらに、『看護総合セミナー』では、『総合実習』で実践した看護を客観的にとらえ、看護実践方法の改善や課題の解決のための方法を考え、看護学の発展を追究するための姿勢を身につけることを目指しています。なお、1年から4年まで選択することができる『へき地の生活と看護』は、自治医科大学の設立の理念を具現化する科目で、自治医科大学と連携して、へき地医療を担っている全国の医療施設等で学べます。

看護職は、いかなる状況に対しても、知識、思考、行動というステップを踏み、最善の看護を提供できる人です。基礎教育では、このような人に成長していく基盤となるような教育を提供することが重要です。今後とも、保健医療福祉の変化や国民の期待に応えることができる看護職の育成のために、カリキュラムの充実を図っていきたいと考えています。

## 看護学部の年間スケジュール（平成25年度）

前 学 期						後 学 期					
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入学式（5日） 前学期授業開始（2日）	創立記念日（14日） オープンキャンパス（25日）	新入生交流パーベキュー大会（13日）	4年次定期試験（11・12日） 1・2年次定期試験（23・26日）	オープンキャンパス（30日） 再試験（28日～30日） オープンキャンパス（23日）		後学期授業開始（1日） 薬師祭（学園祭11～13日）				再試験（27～28日） 1・2年次定期試験（10～14日）	卒業式（7日）
1年	[対象の理解実習] 6/3～7										
2年						[日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習] 9/24～10/25					
3年	前学期実習（5科目） 5/7～7/19						後学期実習（3科目） 11/18～2/14				
4年			総合実習 7/22～8/2								
	妊娠期助産学実習（選択） 7/16～7/19					分娩・育児期助産学実習（選択） 9/2～10/4					
	春季休業 4/27～5/6			夏季休業 8/7～9/30				冬季休業 12/21～1/5			学年末休業 3/21～

## 看護学部 学科目別教員一覧（平成25年5月1日現在）

学科目	職位	氏名	備考	学科目	職位	氏名	備考
看護基礎科学	教授	渡邊 亮一	国家試験対策委員長	母性看護学	教授	成田 伸	教務委員長
	教授	大塚 公一郎	学生委員長		教授	野々山 未希子	保健委員
	准教授	北田 志郎	4学年担当アドバイザー		准教授	角川 志穂	
	講師	飯塚 秀樹	2学年担当アドバイザー		助教	熊谷 歩	
基礎看護学	講師	平尾 温司	1学年担当アドバイザー		助教	黒尾 絢子	
	教授	本田 芳香			助教	柴山 真里	
	准教授	里光 やよい	1学年担当アドバイザー		助教	中野 杏梨	
	助教	飯塚 由美子			教授	中村 美鈴	
地域看護学	助教	岩永 麻衣子		准教授	小原 泉		
	助教	湯山 美杉	1学年担当アドバイザー	准教授	村上 礼子	2学年担当アドバイザー	
	助教	若澤 弥生		助教	安藤 恵		
	教授	春山 早苗	看護学部長*	助教	段ノ上 秀雄		
精神看護学	准教授	鈴木 久美子	3学年担当アドバイザー	助教	樺山 定美	3学年担当アドバイザー	
	准教授	塚本 友栄		助教	吉田 紀子		
	助教	青木 さぎ里		教授	宮林 幸江		
	助教	江角 伸吾		准教授	浜端 賢次	4学年担当アドバイザー	
精神看護学	助教	島田 裕子	4学年担当アドバイザー	講師	川上 勝		
	助教	関山 友子		講師	清水 みどり		
	教授	永井 優子	広報委員長	准教授	横山 由美		
	教授	半澤 節子		准教授	大脇 淳子		
	講師	千葉 理恵	3学年担当アドバイザー	講師	小林 京子		
	助教	小池 純子	2学年担当アドバイザー				

\*看護学部長は自治医科大学大学院看護学研究科長を兼務

## 学生生活へのサポート



### 保健師助産師看護師国家試験の最近の動向

国家試験対策委員長 渡邊 亮一

「ビタミンN」の第8号においては国家試験対策委員会の役割・活動を、第9号においては保健師助産師看護師国家試験の動向について紹介してきました。本号では、保健師助産師看護師国家試験の最近の動向について紹介します。

保健師助産師看護師国家試験は、厚生労働省が公表している「保健師助産師看護師国家試験問題出題基準（以下、出題基準という）」に拠って出題されます。この出題基準は、保健師・助産師・看護師が保健医療の現場に第一歩を踏み出す際に、少なくとも具有すべき基本的な知識および技能を具体的な項目によって示したもので、国家試験の妥当な内容、範囲および適切な水準を確保するために作成されています。

出題基準は、大・中・小の3階層の項目によって示されています。大・中項目は書籍の目次のようなもので、出題の範囲を示し、小項目は大・中項目の内容をわかりやすくするために示されたキーワードとなっています。このような項目を網羅した出題基準の分量は、保健師が20ページ、助産師が30ページ、看護師が59ページに及びます。国家試験の受験者は、この出題基準をよく把握して国家試験の勉強を行わなければなりません。

今春に実施された国家試験は、平成22年に公表された出題基準に基づいて出題されましたが、今年、この出題基準が改定されました。来春の国家試験は、改定された出題基準に基づいて出題される予定です。国家試験のこのような変更内容を学生に正確に伝えることも、国家試験対策委員会の大きな役割のひとつです。



### 経済的支援と看護学部校内の安全対策

学生委員長 大塚 公一郎

学生委員会は、学生が健康で安全、快適な大学生活を送れるようにさまざまな支援を行っています。委員である教員が、事務職員と協力しながら、幅広い福利厚生分野について、企画や指導、助言をしています。

本学部ではさまざまな奨学金制度があり、これらを利用すれば、生活や学費の心配がなく、学業に専念することができます。すべての大学で利用でき、国の事業である日本学生支援機構奨学金は、昨年度全学年で100名ほどの学生が利用しています。また、これとは別に本学部では独自に、自治医科大学看護学部奨学金を設けています。これは、学生の希望者全員に、無条件で月額50,000円（10,000円単位）まで貸与するもので、さらに審査により、月額50,000円（10,000円単位）まで加算され、最高月額100,000円まで貸与されます。昨年度は全学年の半数を超える学生が利用しました。本委員会では担当の教員が、事務職員とともに、学生に対して卒後の生活設計を考慮したうえでの適切な奨学金の利用について指導しています。

さらに、奨学金とは別に、学業成績が優秀、かつ経済的な理由で授業料の納入が難しくなった学生に、学内審査のうえで、授業料などにつき、全額または一部を免除したり支払いを猶予する制度もあり、毎年若干名の利用があります。

また、近年、キャンパス内の防犯・安全対策がとくに要請されていますが、本学部では、警備員による校舎内の巡回やモニターカメラによる監視を行い、万全の対策をとっています。東日本大震災後浮上した校舎等の教育施設・福利厚生施設の建築構造の安全についても、耐震診断を実施するなど必要な安全対策を講じており、学生が安心できる学習環境の提供に努めております。

## 保健師助産師看護師国家試験の合格率の推移

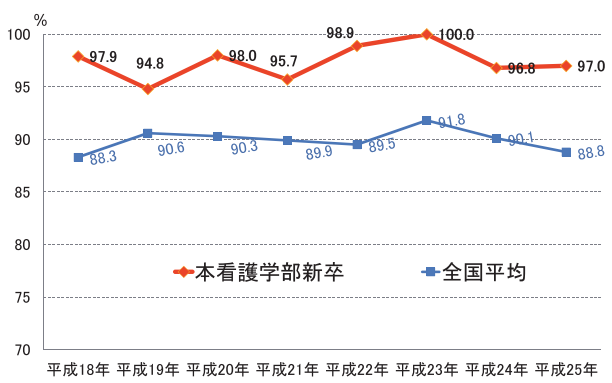


図1 看護師国家試験合格率の推移

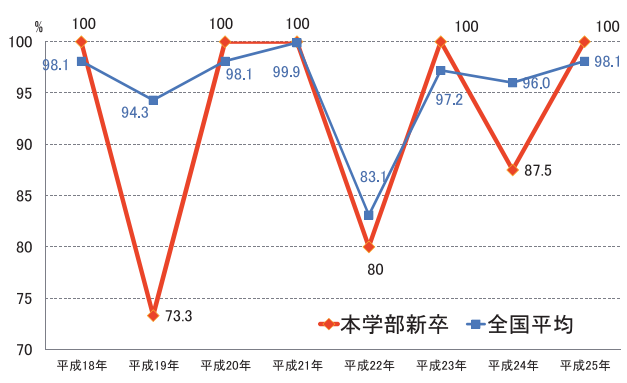


図3 助産師国家試験合格率の推移

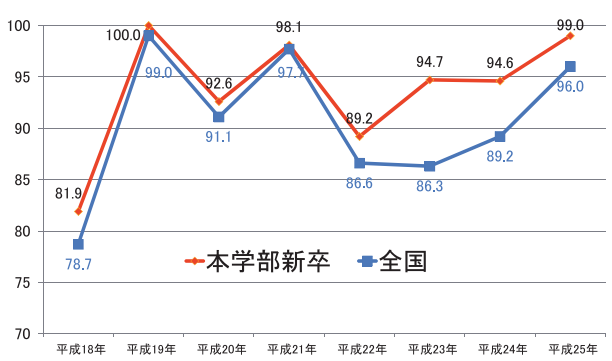


図2 保健師国家試験合格率の推移

注 横軸は国家試験実施年を、縦軸は実施年に受験した4年次学生の合格率(%)を示す。助産師国家試験の各年の受験者数は7名程度の年があり、不合格者1名の占める割合が20%程度になる場合がある。なお、不合格者のうち、希望者は卒業後も国家試験対策委員会で継続的に受験の支援し、翌年度以降に合格している。

## 奨学金の貸与状況

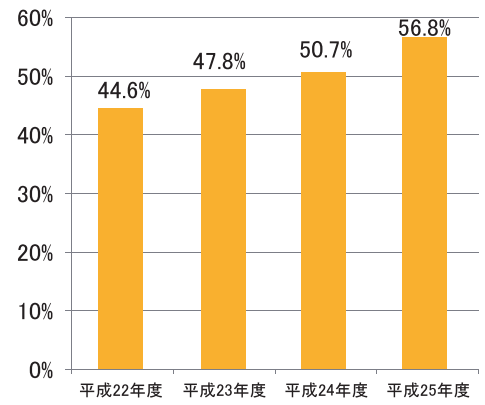
### 日本学生支援機構奨学金（平成25年度）

看護学部全学生における貸与率 22.2%（前年度比-0.7%）

学年	第一種奨学金		第二種奨学金		計	
	人数	貸与月額(円)	人数	貸与月額(円)	人数	貸与月額(円)
1学年	11	610,000	5	350,000	16	960,000
2学年	7	398,000	10	770,000	17	1,168,000
3学年	7	394,000	20	1,430,000	27	1,824,000
4学年	14	768,000	21	1,550,000	35	2,318,000
合計	39	2,170,000	56	4,100,000	95	6,270,000

### 自治医科大学看護学部奨学金（平成25年度）

貸与月額	1学年	2学年	3学年	4学年	計
2万円	0	0	0	4	4
3万円	4	8	69	6	27
4万円	0	0	3	1	4
5万円	58	49	49	40	196
7万円	0	2	0	0	2
8万円	0	1	0	0	1
10万円	0	2	1	1	4
計	62	62	62	52	238



看護学部全学生における貸与率 (%) の推移

## 平成24年度自治医科大学卒業式

平成25年3月8日(金)、地域医療情報研修センター大講堂において、多数の来賓、保護者の出席の下、平成24年度自治医科大学卒業式が厳かに挙行されました。

高橋真理さんには看護学部第8期生101名を代表して永井学長から卒業証書・学位記が授与されました。今回の卒業式を含め、本学から巣立った看護学部卒業生は838名となり、全国の看護実践の第一線で活躍しています。

### (学長賞および私立看護系大学協会会長賞について)

毎年、学業成績及び人格が優れた卒業生に対して、学長賞が授与されています。平成24年度は看護学部から石井美樹さん、高橋真理さん、平田泰子さんの3名が選ばれ、卒業式において永井学長から賞状と記念品の楯が授与されました。

また、日本私立看護系大学協会から、人間性の陶冶につとめ、学業において優れた成績をおさめた卒業生に対して贈られる、私立看護系大学協会会長賞に田坂花織さんが選ばれ、学位伝達式にて学部長から表彰状が授与されました。



学長賞受賞者(左3名)と私立看護系大学協会会長賞受賞者(右端)

### (卒業記念品について)

毎年卒業生から卒業記念品として素晴らしい品を寄贈していただいております。(p.18参照)

平成24年度は看護学部第8期卒業生一同から日光市在住、五十嵐輝吉先生作の日光彫の書棚が寄贈されました。日光彫は江戸時代までさかのぼる日本を代表する伝統的な彫り物です。

卒業記念品の贈呈式は卒業式前日の3月7日に行われ、春山看護学部長、川村大学事務部長および学生代表の手により幕が落とされると参列者から歓声があき、しばし日光彫の素晴らしさに感激していました。自治医科大学看護学部の良き思い出がまた1つ増えました。寄贈された書棚は、学生談話室に設置され、多くの方に自治医科大学看護学部を知っていただく情報発信のツールとして大切に活用させていただきます。



卒業記念品贈呈式



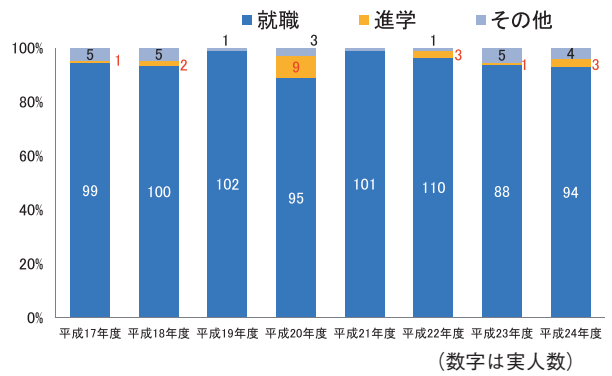
卒業記念品

## 卒業後の進路の推移

### 卒業時の進路全般について

第1期生（平成17年度卒）から第8期生（平成24年度卒）まで、看護学部の卒業生は838名で、うち786名（93.8%）が就職し、就職希望者の就職率は100%です。国家試験不合格者は、看護職ではなく、看護助手等で就職しています。

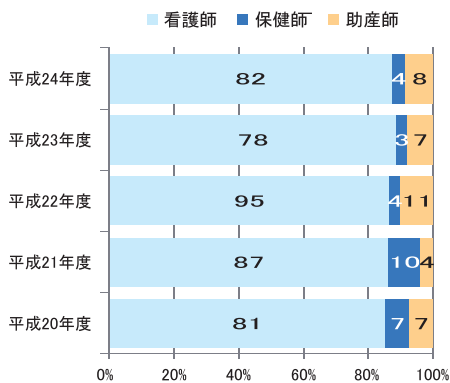
進学者は計23名（2.7%）で、養護教諭養成課程、助産師養成課程、大学院等に進学しています。卒業時に進路が未定の者（その他）には結婚等が含まれており、計29名（3.5%）です。（右図参照）



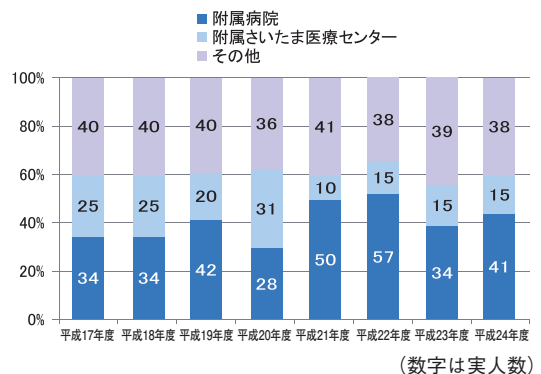
### 卒業時の就職状況について

8期生までの全就職先は、本学附属病院41.0%、本学附属さいたま医療センター19.2%、本学以外の栃木県内施設4.2%、本学以外の県外施設35.8%です。なお、過去5年間（第4期～第8期）の就職者488名を職種別にみると、看護師は86.7%、保健師は5.7%、助産師は7.6%でした。卒業後、職種を変えてキャリアを發展させている卒業生も少なくありません。

#### 〈職種別〉



#### 〈主な施設別〉



#### 〈就職施設一覧（平成24年度）〉

##### \* 大学病院

自治医科大学附属病院、自治医科大学附属さいたま医療センター、筑波大学附属病院、群馬大学医学部附属病院、千葉大学附属病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、杏林大学医学部附属病院、東京慈恵会医科大学附属病院、東京大学医学部附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、九州大学病院、慶應義塾大学病院、日本医科大学附属病院、東海大学医学部附属病院、信州大学附属病院、神戸大学医学部附属病院

##### \* 総合病院

秋田赤十字病院、竹田総合病院、足利赤十字病院、宇都宮記念病院、宇都宮社会保険病院、大田病院、千葉西総合病院、日本赤十字医療センター、新潟県済生会三条病院、帯広第一病院、仙台オープン病院、国立病院機構福島病院、上尾中央総合病院、みさと健和病院、板橋中央病院、虎の門病院、三井記念病院、九州医療センター

##### \* 自治体病院等

青森県立中央病院、岩手県予防医学協会、山形市立病院済生会、茨城県立中央病院、さいたま市立病院、大崎市民病院、岐阜県総合医療センター、栃木県、岩手県医療局、沖縄県立病院

##### \* 専門病院

国立成育医療研究センター、がん研有明病院、東京都立小児総合医療センター、特定医療法人共和会共和病院、神奈川県立こども医療センター

##### \* 行政機関・企業（保健師等）

郡山市、古河市役所、福島市役所、栃木県、埼玉県

## 卒業生の近況

自治医科大学附属看護学部同窓会の<sup>いま</sup>現在

同窓会会長 4期生（平成20年度） 渡邊 瑠美

自治医科大学とちぎ子ども医療センター 子どもの心の診療科 看護師



看護学部同窓会は今年で設立8周年を迎えました。今日までほぼ全員の卒業生が加入していただいております、同窓会活動も日々活発になっています。

昨年行われた同窓会主催看護フォーラムでは、へき地医療をテーマとし、へき地で活躍している看護職の皆様にご講演いただきました。大学附属病院で働く卒業生が多いなかで、へき地で勤務する看護職の方々の話しを聞くことは、私たち卒業生の今後の進路の参考になり大変有意義な時間になりました。また、昨年度2月には看護学部と共催し、3年生を対象にキャリア支援会を開催しました。学部卒業後にさまざまな進路を選んだ同窓会会員が在校生に対し、自分の職業を紹介し、在校生から多くの質問をいただきました。今後もこのような活動を通し、同窓会と看護学部がつながりを持ち、相互の発展に寄与できれば良いと考えています。

自治医科大学在学中にも多くのことを学びますが、卒業後にも同窓会活動を通じて、同窓会会員が自己研鑽を積めるような活動を企画していきたいと思います。在校生の皆様、そして保護者の皆様には、今後も同窓会の活動にご協力いただければ幸いです。

### 自治医科大学における学びと保健師活動

2期生（平成18年度） 伊藤 実緒

長野県飯田保健福祉事務所 健康づくり支援課 保健衛生係 保健師



私が大学を卒業し、保健師になって6年が経ちました。学生時代から地域医療（保健）に携わりたいという思いがあり、また、入学前より働く場は病院や診療所等の医療施設以外を考えていたため、地元の保健師採用試験を受けました。県の保健師になるのか、市の保健師になるのかについて、とても迷いましたが、県の保健師として働くことを決めました。現在は主に精神保健を担当しています。

保健師として心がけていることは、相談者に寄り添いながら、困っていることを一緒に解決していくという姿勢です。相談者の心の声に耳を傾け、必要なところをちょっとお手伝いできる「いつも頼れる存在」を目指しています。

保健師の仕事は、常にさまざまな相談があるため、その一つひとつに対応する看護職の問題解決能力が求められます。また、どんな時でも関係者と連携して物事を進めていく力が必要になります。これらについての基礎は大学で学ぶことができるので、まずは基礎科目をしっかりと学習することが不可欠です。その上で、学内での勉強だけでなく、できるだけいろいろな経験ができるように、何事にも積極的にチャレンジすることが大切です。

また、学生時代に得られた人脈は貴重です。仲間と一緒に、チームで同じことに取り組むといった経験をたくさんしてみてください。学生時代にしかできないことを一生懸命に取り組むことが、きっと将来の自分につながるはずです。



## 質の高い看護を提供するために



1期生（平成17年度） 能登 桃子  
横浜市立みなと赤十字病院 助産師

自治医科大学看護学部を卒業して8年目になります。私は学生時代、助産師を目指していたので、助産師の科目と看護師・保健師の科目の学習の両立が大変だと感じることもありましたが、先生方や同級生に支えられて乗り越えることができました。また、へき地医療研修など自治医科大学だからこそできた経験もあり、それら経験は私の糧となっています。

自治医科大学大学院看護学研究科が私の卒業した年にできましたが、卒業時は進学への考えは全くなく、臨床で働き続けたいと考えていました。しかし、就職して実際に患者さんやご家族と関わるなかで、根拠に基づいた質の高い看護を提供するためにもっと勉強したいと考えるようになりました。そのようなおり、看護学部の恩師から大学院の話聞く機会がありました。進学のために退職することには不安もありましたが、慣れ親しんだ母校でもう一度看護について時間をかけて向き合えることに魅力を感じ、進学を決めました。大学院では、多くの専門性をもつ教授や看護師とのディスカッションや実習、研究を通して看護についてより深く考えることができましたと思います。

現在、私は横浜市立みなと赤十字病院で助産師として働いています。自治医科大学で学んだことを生かしつつ、質の高い看護を提供できるように取り組んでいきたいと考えています。

## 自治医科大学大学院看護学研究科博士課程について

本看護学部第1期生が卒業した年に開設した本大学院看護学研究科は、2012（平成24）年度に博士後期課程を設置し、高度看護実践者、看護管理者、教育研究者等を目指す人が、卒業後にも生涯を通して共通したミッションで学ぶ環境が整いました。

博士前期課程には、高度な看護実践能力をもつ人と効果的ケア提供システムを構築できる人を育成する2分野があり、実務を経験した卒業生が進学しています。平成24年度までに52名が修了し、約6割は在職のまま学修しました。また、母性看護、小児看護、クリティカルケア看護、精神看護、がん看護領域の専門看護師教育課程があり、修了生のうち13名は専門看護師、2名は認定看護管理者として認定されています。共通科目を中心に1科目から単位を取得できる制度もあり、ぜひご利用ください。詳細は本学ホームページをご覧ください。

## いま 看護学部の現在

### 看護学部学生自治会

学生自治会長 2年 新妻 駿（真岡高等学校出身）



看護学部学生自治会は学生生活の向上を目的に学生全員で構成される組織であり、役員が約10年の歴史を引き継ぎ、活動しています。

今年度は1、2年生から役員を募集し、17名で活動を始めました。これまでの会長、副会長、書記、会計に加え、新たに会計監査、設備管理、広報、企画、などの専門部署を設けました。現在の主な活動は、学生サロンのコピー機管理や、学生からの要望を取りまとめるためのアンケートの実施などと少ないですが、これからはイベントの企画や設備の充実、学校行事への参加などを計画しています。また、新入生や卒業を控えた学生対象のイベント、各学年や先生方との交流を行う機会をつくることができたらと考えています。

私自身、学生自治会役員となることは初めてで、会長という大役に責任と不安を感じていますが、自治会への強い思いを持って集まった他の役員と協力して、看護学部の学生生活をサポートしていけるよう努力していきます。

学生自治会はまだまだ活動の規模は小さいですが、活動を積み重ね、看護学部を盛り上げていくことができたらと思います。役員全員で「充実した学生生活のなかで、看護学を学ぶことができる大学」を目指し、頑張りますのでこれからよろしくお祈いします。

### 看護学部寮自治会（女子学生寮）

学生寮自治会長 2年 沼尾 歩（宇都宮中央女子高等学校出身）



現在寮自治会は、会長、副会長をはじめ、書記、会計、会計監査、環境整備、役員の選挙管理等といった合計19名の役員で活動しています。各々が与えられた役割を果たすことで、女子学生について目の届きにくい細かなところまで維持・改善していけるように心がけています。

寮自治会は、入寮生に生活に関するアンケート調査を行い、その結果を基に役員会議で改善していけることについて意見を交わします。さらに、この寮自治会役員会議でまとめられたアンケート調査の結果を学生委員会の先生方や学生自治会の役員と一緒に行われる会議で報告し、寮生活の改善につながるような提案などもしています。

今後はこれまで以上に寮生に私たちの活動を身近に感じてもらい、寮生が意見を述べやすい雰囲気のある自治会を目指していきたいと考えています。実際に生活しているからこそ、寮での生活における問題点について気づき、その解決への素晴らしいアイデアをたくさん創り出すことができると思います。改善点や解決策についてお気づきのことがあればぜひ、寮自治会に届けてください。寮自治会役員だけでなく寮生全員で、さらに保護者や、先生方のご協力を頂きながら、寮生活をより楽しく充実したものにしていきたいと思っています。

## 【1年次】大学生になって考えたこと

福本 麻衣（熊谷女子高等学校出身）



大学生として新たな一步を踏み出してから、早くも1か月が過ぎました。始めは新しい環境に不安と戸惑いを覚えました、今はそのようなことはありません。この地で出会った友達と共に送る、忙しくもあり楽しい学校生活はとても充実しています。

授業は、『人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ』といった専門的な科目の他、『援助関係論』『基礎看護セミナー』といった、自分の考えや意見をもとにグループで話し合う科目もあります。多くの人と接する看護職だからこそ必要な、幅広い世界観とコミュニケーション能力を身につけます。また、『看護技術演習Ⅰ』では、バイタルサインの観察や体位変換の仕方などをシミュレーションします。それらを通し、医療の現場に携わるという責任感を養うことができます。その他にも、へき地における看護活動について学ぶことも可能だと知りました。実際にへき地に赴くことで、医療や看護における相違点に気付き、知識を増やすことで、看護における視野が広がると思います。

これからの大学生活4年間は、私にとって理想の看護師となるための大切な時間となります。この自治医科大学で学んだこと、経験したことを自分自身の成長につなげられるよう努力したいです。



休み時間に授業の復習

## 【2年次】学びを活かし、学びを深める

前 有佑未（金沢泉丘高等学校出身）



入学してからあっという間に1年が過ぎました。1年次前期の『対象の理解実習』では、病棟に出て、実際に患者さんとお話をし、また、臨床で働く看護師さんの仕事を間近で見学する機会にも恵まれました。看護知識がほとんどないなか、純粋に対象である「人間」を感じ、看護職の役割や大切さを肌で学ぶことができ、とても新鮮で、一生忘れられない経験になりました。また、そのとき感じたことをもとに『基礎看護技術演習Ⅱ』にも取り組むことができ、学習と実践をうまく結びつけることができました。

夏には、『へき地の生活と看護』で山中温泉の地域医療の実習を体験し、地域の方々の温かさに触れながら、場所による医療の役割の違い、そしてより良い医療を提供するための共通点を知ることができました。

1年次に複数の実習を経験できたことは、これからさまざまなことを学ぶにあたって、考え方の大きな土台になったと思います。

これから2年生では必修科目が増え、後学期には『日常生活援助実習』、『成人期継続療養看護実習』が始まります。より専門的な知識や技術を身につけ学習を発展させていくためにも、新鮮な気持ちを忘れないように、1年次の経験を生かしながら仲間と共に学びを深めていきたいです。



山中温泉医療センター（石川県）実習にて

## 【2年次】2年生になって

高橋 睦綺（真岡高等学校出身）



1年という時間は過ぎるのは長いようでとても短く、正直なところ2年生になった実感はあまりありません。ですが、大学生活にはだいぶ慣れました。

僕は男子学生寮に入寮しています。広さ10畳のワンルームで、キッチン、バス・トイレは別です。キッチンは割と広く使いやすいのですが、1年のときはあまり自炊をしておらず、有効活用できていなかったのが、今年度からは有効活用して料理系男子を目指すことにします。寮での生活は、総じていえばとても快適です。注意する点としては、勉強に支障がないように小まめに掃除をして、夏は臭気を放つので、生ごみを長時間部屋に置くのは避けるべきだということぐらいです。

新入生には、勉強面に関しては後につながる勉強をお勧めします。1年生で勉強して得た知識や考え方は2年生で必要になります。テストだけ通ればよいという考え方で勉強するのは、「もったいない」を通り越して無駄にさえ思えます。部活動、サークル活動、アルバイト、遊びとやりたいことはたくさんあるとは思いますが、「忙しい」は言い訳にはなりません。時間は見つけてみると意外にあるものです。これからの学生生活を十分に楽しみたいと思います。

## 【3年次】性別を超えた学生同士の支えあい

太田尾 祐太（宇都宮北高等学校出身）



3年生になり、専門的な講義や演習が増え、忙しい日々を送っています。知識や技術を習得するとともに、看護とは何かについて改めて考えるようになりました。

2年次を振り返ってみて一番印象深いことは、後学期の『日常生活援助実習』です。私たちの学年はカリキュラムの関係上（1、2年生と異なる旧カリキュラム適用）、そのときが初めての病棟実習でした。看護学生として実際に患者さんを受け持たせていただくなかで、看護計画を立てるために必要な知識と看護実践の技術が不足していることを痛感しました。また、患者さんに合わせた看護計画を立てることの重要性と難しさを学ぶことができました。

入学当初は看護学部という女子学生が多い環境に対して、少数派の男子として少し肩身の狭い思いをしていました。けれども、講義や演習でのグループワークやサークル活動を通して、女子学生と仲良くなれる機会が多くあるおかげで、学年が進むにつれて居心地の良さを感じるようになりました。これから実習が連続して続き、さらに忙しくなるとは思いますが、男女関係なく同じ看護学生として、勉強面でも精神面でも助けあい、支えあえていけたらいいなと思っています。

### 【3年次】さまざまな学びを経て飛躍の1年に

藁粥 菜美（安積高等学校出身）



今春から3年生となり、早くも大学生活の半分が過ぎてしまったのだと、しみじみ感じています。その3年生の4月も、これから始まる病棟での実習に向けた講義や演習であっという間に過ぎてしまいました。この慌ただしい日々の中で、私たちは看護とは何か、またどのような看護が必要とされているのか、といった看護の根底部分を改めて考え、自分なりの看護観を深めて、行動していかなければならないのだと身の引き締まる思いです。

2年次に『日常生活援助実習』で初めて病棟に入ったときは、何もかもが初めての経験で、緊張と不安の連続でした。患者さんとのコミュニケーションひとつを取っても、どうしたらよいか分からず、カンファレンスでは同じグループの仲間とたくさん話し合いました。

これからの実習にも不安はもちろんありますが、昨年の経験を生かしながら自分をどこまで伸ばせるのだろうか楽しみでもあります。また、さまざまな患者さんとのひとつひとつの出会いを大切にしていきたいという思いもあります。臨地実習は、講義や演習では学び得ないものをたくさん学び、吸収できる貴重な場所です。さまざまな経験をして、知識や技術を身につけ、仲間と助けあいながら、自分自身が大きく成長できるよう努力していきたいと思います。

### 【4年次】さまざまな出会いを大切に

吉田 奈央（武生高等学校出身）



自治医科大学に入学してから早や3年が経ち、大学生活も残すところあと1年を切りました。3年間を振り返ってみると、本当にさまざまな出会いや出来事があり、それらが私を大きく成長させてくれたと感じています。特に3年次の実習では多くの学びを得ることができました。1、2年生で得た知識をもとに、実際に病棟や地域の施設で実習を行いながら、看護というものを深めていきました。実習の始めの頃は、病態の把握やケアの仕方などを確認することで手一杯となりがちでしたが、先生や臨地実習指導者さんからの助言、また看護の対象となる皆さんとの関わりを通して、対象の方が今必要としている看護とは何か、ということに目を向けられるようになったと思います。

4年生になってからは、講義と並行して、『総合実習』の準備や国家試験対策、さらに就職活動を進めるという忙しい日々を過ごしています。忙しいなかで思い悩むこともあります。大学の友人や先輩、また部活動の仲間との交流で元気をもらっています。卒業まで残された時間は長くありませんが、今までの大学生活で得られた自分の「看護観」を大切にしながら、一日一日を過ごしていきたいと思えます。

## 課外活動の紹介

### 【部活動】文化系：ピアサークル

4年 宇賀神 幸（鹿沼東高等学校出身）

私たちは看護学部19名で活動しています。メンバーは、思春期ピアカウンセラー養成講座を受講して活動をしています。活動は、電話相談やメール相談、中高生に対して行うピアエデュケーション等です。活動を通して、思春期の人達に寄り添い、自分自身について考え同じ思いを共有する時間を作り、自己決定と行動変容につなげていくことを目的としています。

今年の3月に、福島市といわき市で活動している思春期ピアカウンセラーと共に福島県の中学校と高校に行き、ピアエデュケーションを行いました。事前に臨床心理士から説明を受けて状況を把握した上で、自分たちにできることを考えました。話し合いのなかで「楽しい時間を感じてもらうこと」「自分は自分でよいと気づいてもらうこと」を目標として活動し、「楽しかった」「自分のことを初めて考えた気がする」などの感想を得ることができました。

ピアサークルの活動は、長期休暇中に活発になります。そのため、事前に部活動や勉強の時間を確保できるように、先輩と後輩一丸となって準備を行っています。ピアサークルでは、相手に寄り添うことを大切にしており、これは看護に通ずることを学ぶことができるのではないかと思います。また、寄り添うために必要な聴くスキルを学べ、実践できることも良いと思います。これからも、これらのスキルを磨きながら将来につながる多くのことを学びたいと思っています。



ピアサークル国際交流会にて

### 【部活動】運動系：ボート部

4年 金井 美貴（中央中等教育学校出身）

私たちボート部は、看護学部18人、医学部22人、合わせて40名で活動しており、平日はエルゴという機械を使った練習、休日は渡良瀬川にて乗艇練習を行っています。ボートは大きく分けて、大きいオールを1人1本持って漕ぐスウィープ種目と、小さいオールを1人2本持って漕ぐスカル種目があり、主に男子はスウィープ種目、女子はスカル種目で大会に出場します。昨年の東日本医科学生総合体育大会の保健医療系レガッタでは、男子ダブルスカル優勝、女子シングルスカル準優勝、男子舵手付きフォア3位、女子舵手付きクォドルプル新人賞という結果を残すことができました。

ボートはチームワークが最も必要な競技といわれています。クルー内の団結だけでなく、お互いの漕ぎを指摘したり、レースをして競い合ったり、また、マネージャーは漕ぎをビデオに撮り、合宿では食事を作ったりとプレイヤーの支えとなり、部全体が一つになります。楽しいことだけでなく、辛いことも多々ありますが、部活動を通して多くのことを学びました。

今年は学生最後の一年になるので、今まで部活動で培ってきたことを後輩達に引き継ぎ、後悔のないようにしていきたいと思っています。



東日本医科学生総合体育大会（2011）にて

### 【ボランティア活動】ドナルド・マクドナルド・ハウス※

3年 早瀬 美沙（下館第二高等学校出身）  
松本 亜沙子（栃木女子高等学校出身）

私たちはボランティアとして主に、ご家族が暮らしやすいよう環境の整備などを行っています。運営のほとんどがボランティアや寄付などによって行われており、全国から宿泊を希望される家族に格安で宿泊を提供することができます。スタッフやボランティアの方々は皆明るく親切で、私達も楽しく活動しています。また、他の幅広い世代のボランティアの方々と関われることは、私達にとってとても良い刺激になっています。ボランティア活動によるさまざまな人とのコミュニケーションは、思いやりや笑顔の大切さ、感謝の気持ちが培われる機会となっています。私達はこれからもボランティアを続けていき、人間性をもっと豊かに伸ばしていきたいと思っています。

※病気の子どもの治療に付き添うご家族のための滞在施設。世界初のハウスが誕生した1974年以来、世界30カ国315カ所（日本8カ所）に開設されている。



早瀬(右)と松本(左)

## News 厚生労働大臣からの感謝状贈呈

平成25年3月11日付で、本看護学部の教員が東日本大震災の支援活動に多大な貢献をしたことに対して、田村憲久厚生労働大臣から感謝状が贈呈されました。4月16日に看護学部長室において、栃木県保健福祉部の山中晃次長から春山学部長に贈呈され、「今後も引き続き、地域住民の保健医療及び福祉に貢献していきたい」と学部長の抱負が述べられました。なお、今年度も下野市の被災地支援活動に本看護学部は引き続き協力しています。

また、同日付で本学に対しても、東日本大震災に際して、被災地等における医療救護活動等の被災者支援を行ったことについて感謝状が贈呈されていることをあわせてご報告します。



感謝状贈呈式後の記念撮影



贈呈された感謝状

### 下野市による宮城県亶理町支援活動への看護学部の協力について

地域看護学 助教 島田 裕子



下野市は、東日本大震災の被災地である宮城県亶理町の支援活動に協力しています。そのきっかけは、卒業式を終えたばかりの亶理町出身の本看護学部の学生が帰省中に被災して亡くなったことです。下野市は「この学生にとって下野市は第二のふるさと」と考えて亶理町への支援を決定し、昨年からは亶理町の方々を招待して交流会を開催しています。

私を含む教員2名と学生2名は、昨年に引き続き、今年も4月23・24日に天平の丘公園で行われた交流会に招待していただきました。参加した学生は、この交流を通して被災者が直面している多くの問題に触れ、それらが健康や生活に与える影響について憂慮していました。私はこのような機会を通して、被災地の地域医療に貢献できる看護職の育成のためにも、災害看護の教育に尽力したいという思いを強くしています。

また、本看護学部では、東日本大震災の発災後に福島県から栃木県に避難された方々に支援活動を行いました。全教員が教育研究活動を調整して協力し、平成23年3月から8月まで、栃木県内に開設された避難所で、教員11名が延べ35回にわたり健康相談を行いました。この活動に対して、このたび厚生労働大臣から感謝状を贈呈されました。

今後は看護学部として、さらに質の高い災害支援活動が展開できるように、今回の経験を活かしていきたいと考えています。



下野市による宮城県亶理町民との交流会 記念写真

### 第14回日本救急看護学会学術集会からの寄贈品について

本看護学部成人看護学の中村美鈴教授が学術集会長となり、平成24年11月に第14回日本救急看護学会が東京都江東区で開催されました。本学部の教職員の協力と支援に対する感謝として、本看護学部日光彫の書棚2台（五十嵐輝吉先生作、150万円相当）が贈呈され、今年6月末に設置されました。

# 平成24年度学校法人自治医科大学の決算および事業報告

5月27日(月)に開催された理事会及び評議員会において、平成24年度学校法人自治医科大学決算及び事業報告が承認されました。決算の概要(図1~3)及び看護学部の平成24年度の事業概要報告を掲載します。なお、財務状況(決算報告)、事業計画・事業計画書等は、自治医科大学ホームページの「大学紹介」の小項目「情報公開」に詳細を公表していますので、あわせてご覧ください。

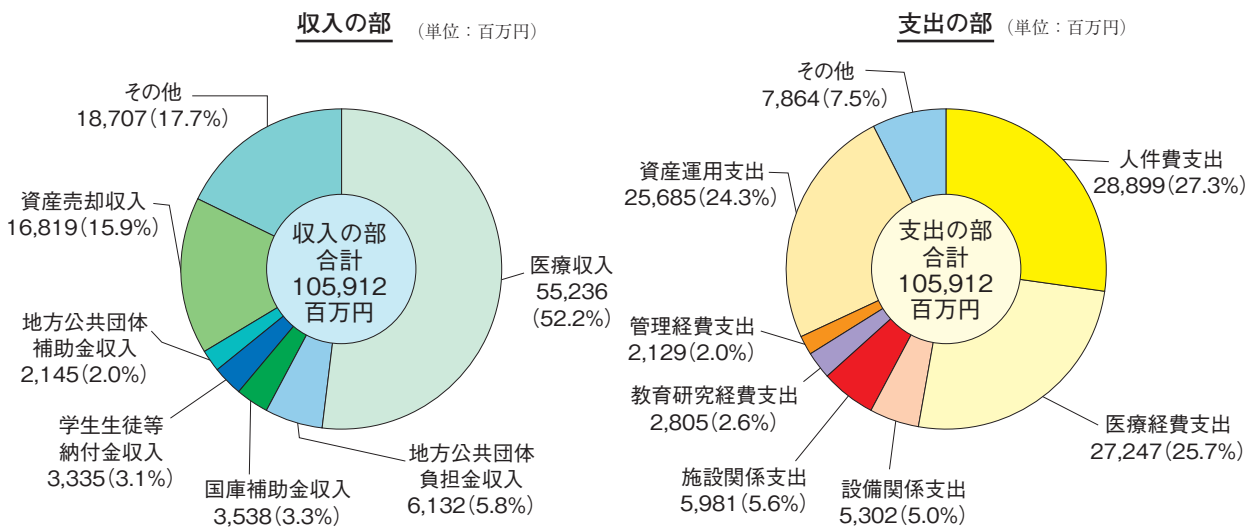
[http://www.jichi.ac.jp/gaiyo/public\\_info/index.html](http://www.jichi.ac.jp/gaiyo/public_info/index.html)

## 1. 平成24年度学校法人自治医科大学決算の概要について

### ・資金収支計算書(図1)

1年間に実際に収入又は支出した金額(現金ベース)を主として科目別に分類して表した決算書です。

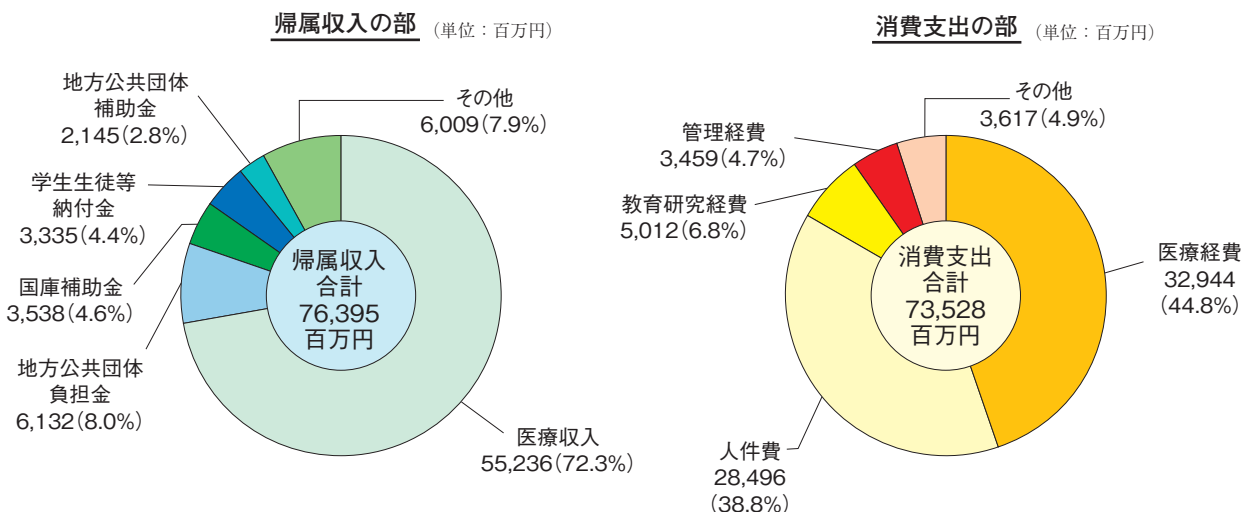
図1 平成24年度決算 資金収支計算書



### ・消費収支計算書(図2)

企業会計で用いられている損益計算書と類似しており、学校法人の経営状況を表した決算書です。

図2 平成24年度決算 消費収支計算書

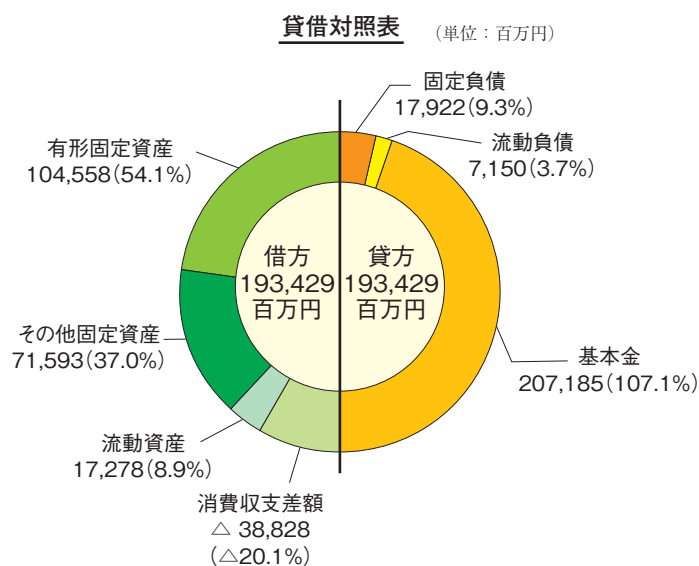




・貸借対照表（図3）

24年度末時点での固定資産や現預金、負債等の保有状況を表した財務書類です。

図3 平成24年度決算 貸借対照表



## 2. 平成24年度事業の概要について（看護学部）

看護学部は、4年間の教育課程を通じて、豊かな人間性を涵養することに力を注ぎ、高い資質と倫理観を有する高度医療と地域の看護に貢献できる看護職者を育成するため、次の取組みを実施しました。

### ① 学生教育に関すること

- ・臨床指導研修会参加者に対する調査を実施し、その結果を踏まえてフォローアップ研修の検討を行いました。また、看護学部看護部連携検討会を2回開催し、看護職養成に関わる看護学部と看護部の連携を図り教育運営の促進に努めました。
- ・国家試験を受験する4年生を対象に国家試験対策ガイダンスを11月に開催し、併せて、11月下旬から1月にかけて国家試験対策ゼミを開講しました。国家試験を受験する4年生を6グループに分け、各グループを担当する教員が個別の学習指導や学習相談を実施しました。
- ・看護学部教員全員に対して、FDマップの活用のための組織整備を行い、自己目標をもつことの意識が浸透しました。また、次年度に向けたティーチングポートフォリオの導入の検討を行いました。

### ② 学生の受け入れ・支援に関すること

- ・オープンキャンパスや進学説明会、高等学校における模擬授業等を通じて、本看護学部のアドミッション・ポリシー（出願者に対する学校側の求める学生像）を理解し、学習意欲の高い学生の確保に努めました。
- ・「カウンセリングルーム便り」の全学生及び教員への定期的な配付、大学ホームページによる利用の案内、学生に対するカウンセラーの積極的な紹介などにより、カウンセリングについての学生の認知度が改善され、効率的な利用につながりました。

### ③ 研究に関すること

- ・研究推進委員会において、科学研究費補助金等外部資金の積極的な獲得・導入の支援を行いました。

## 看護学部卒業記念品の紹介

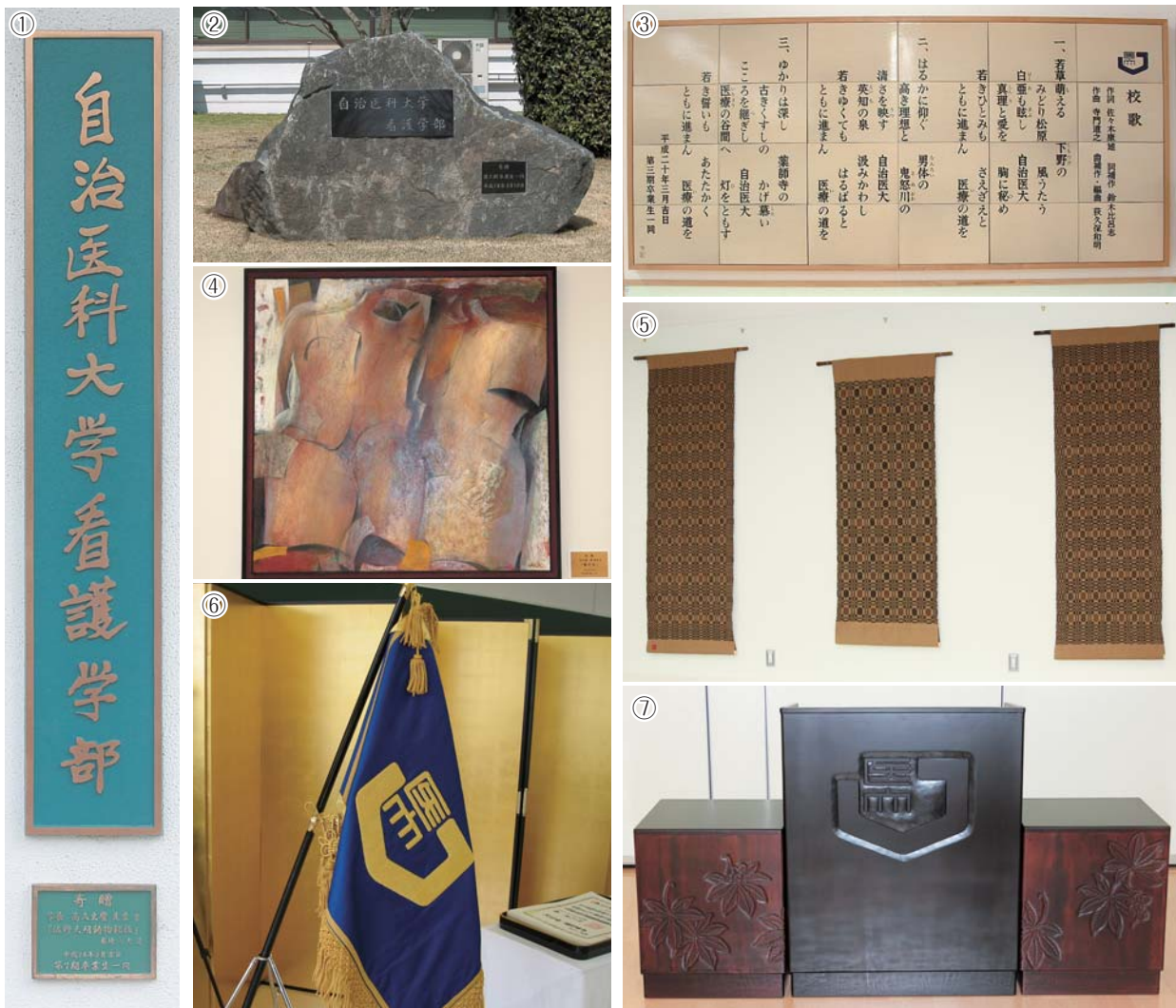
自治医科大学看護学部は、卒業生の皆様から毎年卒業記念品をご寄贈いただいています。

1期生（平成17年度卒）から7期生（平成23年度卒）までの卒業生の皆様から、いただいた貴重な品々をここにご紹介いたします。いずれも栃木県内の有名な伝統工芸作家および芸術家による高価なものばかりです。

看護学部校舎玄関には古くから佐野市に伝わる伝統工芸品で作成された高久史磨前学長の書による銘板（①7期生、平成23年度卒）をいただきました。また校舎正面には、本学部のランドマークとなる記念碑（②1期生、平成17年度卒）をいただきました。また、どちらも看護学部の顔として来学者にも大変好評です。

また、平成20年度に設置された学習室は、学生の自習のほか、オープンキャンパスや臨地実習指導研修会、同窓会の講演会などでも利用されています。入口の南前方には、陶芸家藤原郁三氏による本学校歌の陶板（③3期生 平成19年度卒）が、北前方には小久保裕画伯による油彩画「地天女」（④5期生、平成21年度卒）が、後壁中央には自家栽培で手紡ぎによる稀少な茶綿を使った染織家の日下田正氏によるタペストリー「アラバスク」（⑤4期生、平成20年度卒）が展示され、落ち着いた学習環境を演出しています。卒業式後に行われる学位伝達式では、式典用校旗（⑥2期生、平成18年度卒）が飾られ、日光彫の演台（⑦6期生、平成22年度卒）を用いて卒業生一人ひとりに卒業証書・学位記が授与されています。

看護学部では、卒業生の皆様から寄贈していただきました卒業記念品を大切に、そして有効に利用してまいります。卒業生の皆様、ありがとうございました。



### 編集後記

今回のビタミンNは第10号を記念し、特別号として企画・編集しました。創設からの歴史を踏まえて発展を続ける看護学部の現状をご報告しました。ご意見やご要望をぜひお寄せください。（飯塚）

ビタミンN 第10号

発行日 平成25年7月17日

発行 自治医科大学看護学部

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-159

T E L 0285-58-7409（看護総務課）

E-mail vitaminen@jichi.ac.jp